

中村春一 なかむら ひとし 教育家。明治十年二月二十一日東京生れ、大正十二年一月二十一日歿（八七七一—一九四〇）。筆名なかにむら、なかにむらほると、春一、枯林逸人。東京帝國大學卒。曹洞宗中堂林等々の教鞭を執り、明治二十九年學生救済成蹊園を創設。大正九年各種學校を統合して成蹊学園とした。國學者中郵秋香の子。

編著書、中郵秋香著『不蓋通洋讀稿』（中郵春一各編、明治四十四年一月二十五日前川文樂閣）、成蹊小學校男兒（一年生）『ふた葉集』（編大正七年二月十五自成蹊學校）、『漢詩選ぬきほ』（なかにむらほると各やく、大正十一年十一月十五自成蹊学園出版部）、『かながきのすずめ』（同、大正十一年十一月十五自成蹊学園出版部）、『斯の道の爲の心』（大正十二年一月一自成蹊学園出版部）、『中村春一選集』（小林一郎編、大正十五年二月五日前中村秋一刊）、歌集『権の一と心』（澁谷光長編、昭和二年九月二十一日中村春一遺稿刊行會）等。

文獻、澁谷光長編『恩師の面影』（昭和十一年一月二十一日成蹊学園）、川瀬一馬編『中村春一先生記念会室の記録』（昭和二十七年七月十五自成蹊学園）等。

